

先祖 と 生きる

暮らしとお墓のうつりかわり

展示見学の手引き

身近な人の死に対する

悲しみや無念さ

あるいは感謝の気持ち

昔の人はどうだったのだろうか

遺跡の発掘調査から浮かび上がる

先祖とともに生きた人々の姿



勝五郎くん

故人をしのぶ篤い想いと

その彼らを見守る亡き人の

優しいまなざし

生きるって楽しい

独りじゃないもの

プロローグ 勝五郎くんからのメッセージ

皆さん、こんにちは！僕、^{かつごろう}勝五郎。江戸時代の多摩に生まれた8歳の男の子。君たちの先輩さ。実は僕、幼くして亡くなった隣村の^{とうぞう}藤蔵の生まれ変わりなんだ。行ったこともない隣村の様子を言い当てたりしたから、もう村中大騒ぎ。^{いけだかんざん}池田冠山という殿様や^{ひらたあつたね}平田篤胤という有名な学者さんなど、多くの人々の間でも評判になったんだよ。



いろいろな人が、僕のことを本に書いているけれど…



例えば、明治時代に日本にやってきた文学者のラフカディオ・ハーン。^{こいずみやくも}小泉八雲というペンネームは、みんなも知っているよね？ 彼が僕のことを英語で紹介してくれたので（随想集『仏の島の落穂』所収「勝五郎の転生」）、僕は海外でもちょっとした有名人なんだって。

こんな僕だから、亡くなった人たち、残された人たち、どっちの気持ちもわかるんだ。だって、自分（藤蔵）のお葬式で前のおとうやおかあが嘆き悲しんでいるのをただ見つめながら、僕自身とても切なくさびしい思いをしたんだもの。だから、これだけ科学の進んだ21世紀になっても、「亡くなった人」との交流がずっと続いているのは、僕にとってもうれしいことなんだ。お葬式やお墓の形だって、僕の時代と良く似ているし、お正月やお彼岸・お盆などにお墓参りに行く人も多いでしょう。

でも個人が自由に生きられる時代、家族のあり方も多様化する中で、「家族葬」、ロッカーみたいなお墓やインターネットの中のお墓、^{さんごつ}「散骨」、お墓を止めてしまう「墓仕舞い」など、お葬式やお墓をとりまく環境が大きく変わりつつあるって、テレビでも言ってたよ。

みんなは、これからのお葬式やお墓について、どう考えますか？



僕のお墓は、今もちゃんと残っているよ。

左：藤蔵の墓（日野市高幡不動内）

右：勝五郎の墓（八王子市永林寺内）

実は、生きている人と亡くなった人たちが、互いに助けあって生きていく姿は、ずっと昔から続いてきたこと。それを皆さんにも知ってほしいから、今日は多摩の遺跡を巡りながら、暮らしとお墓の移り変わりについて眺めてみましょう！

もちろん、案内役は僕。それでは皆さん、時空旅行へ出発進行！

ずっと昔からあって、この先もずっと続くような気がしていたお墓。でも、東京中を探しても、江戸時代より前のお墓はほとんど見つからない。もっと昔、今とは生活や文化が大きく異なる古代や原始時代の人々は、亡くなった人のことをちゃんと考えていたのかな。



盆棚：お盆の時、屋敷に戻ってくる先祖の霊をお迎えするための設え。ちょっと前の多摩地域には、こんな風景がたくさん残っていたんだよ。

（八王子市別所、昭和50年代）



江戸時代

多摩ニュータウンNo.5 遺跡 稲城市長峰

今から約300年前の江戸時代の中頃、村の中心から少し離れた丘の上に一軒の農家があった。暮らしは裕福ではなかったけど、日々一生懸命暮らしていたんだよ。そして、その家のお墓は屋敷のすぐ後ろにあった。亡くなった人とも、いつも一緒ってわけ。お墓は8基あって、そのほとんどのお墓からお金が6枚づつ見つかったよ。^{こくら}極楽に行く途中には、この世とあの世をへだてる^{さんす}三途の川があるんだけど、これはその渡り賃。残された家族の気持ちが伝わってくるようだね。そして、亡くなった人も、いつも近くで家族のことを見守っていたんだ。



墓域：○印で囲まれた場所がお墓。

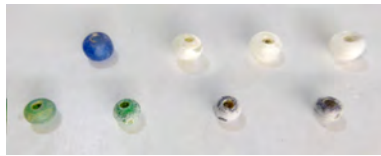
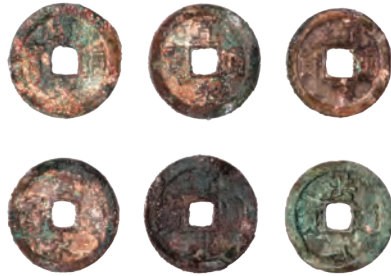
家ごとにお墓を作ったり、墓石を建てたりする習慣が、広く行われるようになったのは、江戸時代のはじめの頃。今のお墓の形ができてから、まだ400年くらいしか経ってないんだ。また、この頃は火葬ではなく、亡くなった人を桶などに入れて埋める土葬が主体だったんだよ。だから、一人づつに墓石を建てることも多かったんだ。



お墓：お墓は家のすぐ後ろにあり、全部で8基の墓坑が見つかった。形は長方形、方形、円形の3種類があった。



墓坑：写真の人骨は壮年の男性で、六文銭のほか、9個のガラス玉が副葬されていた。



副葬品：必ず入れられる六文銭（上）のほか、生前使っていた煙管（下）や茶碗（中右）、それにガラス玉（中左）などがある。



室町時代

多摩ニュータウン No. 457 遺跡 稲城市長峰

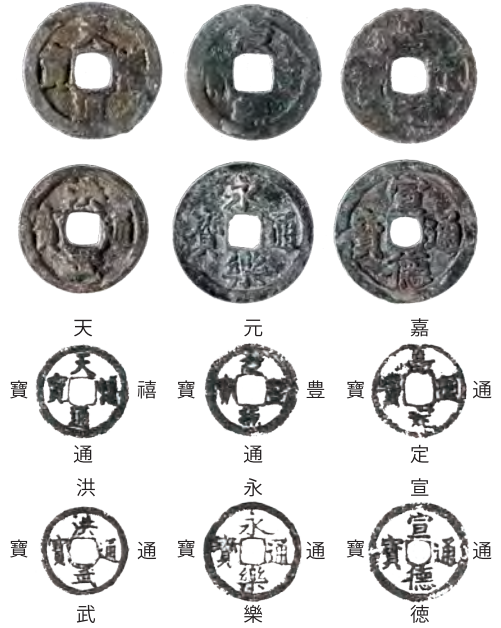
これは、現在の多摩センター駅のすぐ西にあった今から約450年前の^{やかた}館。
永嶋八兵衛という武士の屋敷だから、結構立派だね。
そして、この館の中や近くにもお墓が造られていたんだ。
全部で9基のお墓が見つかったよ。家の基礎や繁栄を築
いたご先祖様を大切におまつりすることで、一族の安全
とますますの発展を願っていたんだね。過去を大切にす
るってということは、同時にこれからの未来も大切にする
ことなんだね。



墓域：○印で囲まれた場所がお墓。居館の外側のほかに、屋敷地内からも見つかった。全部で9基。形は長方形で、人骨が残っていたものもあった。



ほこら
墓坑：江戸時代の遺骸は木桶や木棺に入れて埋葬したが、この時代はそのまま土葬にした。被葬者は熟年の男性。



副葬品：豪族にもかかわらず、副葬品はいたって質素で、ほとんどのお墓で六文銭しか検出されなかった。すべて渡来銭である。



いたび
板碑：多摩ニュータウン No.513 遺跡で見つかった板碑群。板碑は本来くよう ぎやくしゆ 供養や逆修のために造られたもの。江戸時代になるとしたいにお墓に墓石を建てるようになるが、板碑はその原形と言われている。



奈良・平安時代

瀬戸岡古墳群32号墳 あきる野市瀬戸岡

多摩ニュータウンNo.5遺跡 稲城市長峰

多摩ニュータウンNo.192遺跡 町田市小山ヶ丘

今から約1,200年前、この辺りでも火葬という、それまでなかった新しい葬り方が見られるようになる。焼いた骨は骨蔵器に納めるんだ（下段の写真）。なお、上段の右にある火葬骨壺は、なぜか瀬戸岡古墳群の中にあるとても古いご先祖様のお墓の中（上段の左）に納められていたんだ。古墳が造られて200年位後のことだよ。このことは、土葬と火葬の違いはあっても、ご先祖様を身近に感じる気持ちだけは、ずっと変わらなかったことを教えてくれるね。



瀬戸岡古墳群32号墳出土の骨蔵器（右）と石室内の出土状態（左）。



多摩ニュータウン No.5 遺跡



多摩ニュータウン No.192 遺跡

古墳時代

瀬戸岡古墳群30号墳 あきる野市瀬戸岡

時代の名前にもつけられているように、今から約1,700～1,400年前頃には、各地で古墳とよばれるお墓がたくさん造られていた。といっても、皆がここに葬られたわけではなくて、古墳は地域の豪族たちのお墓だったんだ。だから、石を組み合わせせて造った石室の中や外に、地位や権力を示す品々とともに埋葬されていたんだね。

あきる野市で発掘された古墳からは、鉄の鍬やじりをはじめ、地元で作られた土器や石で作った丸玉などが見つかったよ。このお墓を残した人たちは、奈良時代以後もこの地の開発を進めて、馬を飼い、農地を耕して暮らしていたんだね。



石室：平面形は胴張り形で、その規模は長さ3.15m、幅は最大で1.1mほどである。後世に持ち出されたためか、出土したのは鉄鍬てつそくや土師器はじきの椀わん、それに石製の玉のみであった。



副葬品：土師器の椀（上）と石製の丸玉（下）。丸玉は蛇紋岩を磨いて作られている。



弥生時代 多摩ニュータウンNo.200 遺跡 町田市小山ヶ丘

力を持った者とそうでない者が分れてきたのは、今から約2,000年前の弥生時代の終わり頃。この頃は権力をめぐって、あちこちで戦いも起きていた。そんな中、多摩ニュータウンの西の端の山の上に大きなムラが営まれていたんだ。そして、ムラから見上げた尾根の頂上付近には、ほうけいしゅうこうぼ方形周溝墓という大きなお墓も造られていた。家の跡は何度も建替えられたため50軒以上見つかったけど、お墓は8基だけしか見つかっていない。そう、やっぱり、これはムラの長など有力者たちのお墓なんだ。亡くなった後も、山の上からムラや支配する地域を見守っていたんだね。だから、お墓には剣などの権力を象徴するものがそえられていたんだよ。



集落と墓域：お墓は集落を見下ろす尾根上から複数見つかった。



方形周溝墓：8基見つかったお墓のうち、もっとも立派なもの。このお墓からは鉄製の武器やくだたま管玉など多くの副葬品が見つかった。

尾根上に並ぶお墓：方形周溝墓と呼ばれている。これらリーダーのお墓はムラを見下ろす場所に造られた。



副葬品：リーダーのお墓には、管玉やガラス玉（上）などの装飾品のほか、権力を象徴する鉄鏃や鉄剣、鉄釧てつくしろ（腕輪）などの武器や鉄製品が副葬されていた。



縄文時代

多摩ニュータウンNo. 107 遺跡 八王子市松木

暮らしとお墓の旅も、ついに4,500年前まできちゃったね。これは
おおくりがわ おおたがわ
大栗川と大田川が合流するところに作られた縄文時代のムラ。何百年間も続
いたので、30軒の家の跡が見つかったんだ。もっとびっ
くりなのは、ムラの真中に213基もお墓が見つかった
こと。弥生時代のムラでは亡くなった有力者がみんなを
見守っているように見えたけど、ここではまるで生きて
いる人が亡くなった人を包み込むように暮らしていたこ
とがわかる。皆で力をあわせて生きていたから、死んだ
後も平等にお墓を造ってもらって、いつまでも一緒に暮
らしていたんだね。



集落と墓域：お墓は家々に囲まれた中央の広場にあった。



かんじょうぼくろく

環状墓坑群：発見されたお墓は、環を描くように並んでいた。これをさらによく観察すると、4つのまとまりに分かれていて、ムラが4つのグループで構成されていたことが分かる。それぞれのグループ内のお墓は複雑に切りあっており、長年にわたり同じ場所にお墓を造っていたことも分かる。



かめかぶ

こうえんぶ

甕被り葬：お墓の中には口縁部を下にした土器が斜めの状態で見つかるものがある。その状態から、死者の頭に土器を被せて埋葬したと考えられている。



石製垂れ飾り：213基見つかったお墓のうち、5基の墓坑から石製のペンダントが出土した。この時代、貧富の差はなかったが、ムラをまとめる人物はいたのだろう。



石匙・石棒：お墓からは土器が見つかることも多いが、中には石器が出土するケースがある。ある墓坑では石匙が2点副葬されていた。通常の石匙（左）に比べてかなり大きく、お墓に入れるために特別に作られた可能性がある。石棒（右）は子孫繁栄の象徴と言われているが、これをお墓に入れた意味は何だったのだろう。



甕棺墓：多摩ニュータウン No.72 遺跡で見つかった。倒置させた大形の甕の中からはわずかに骨粉が検出された。土器は胴部が上下に分割されており、底部には焼成後に孔が空いていた。これは白骨化した遺体を再び葬った「再葬墓」と考えられる。

エピソード お墓と暮らしの未来

皆さん！お墓と暮らしの旅はどうだったかな。

僕たち一般庶民のお墓が見つからない時代もあったけど、江戸時代や室町時代それに縄文時代に代表されるように、亡くなった人たちと生きている人たちが同じ場所で一緒に暮らしてきたことが分かってもらえたかな。今回の時間旅行の出発点は21世紀の現代で、そこから縄文時代まで遡ってみたんだけど、最後の課題は、ぐるーっと一回りして、やはり現代とこれからの未来のことなんだ。

現代は核家族かくかぞくの時代なんだって。お父さんやお母さんそれに子供だけの家族のことで、おじいちゃんとかおばあちゃんは一緒に住んでいない。しかも、今は少子化の時代でもあるんだって。兄弟や姉妹の数が少ないってことだね。従来の大家族とは違うそういう小さな家族が大きな割合を占めているらしい。お墓は家族のものだから、家族の形が変わればお墓の在り方も変わってくるかも知れないね。



今は僕たち個人が自由に物事を考え、生きていい時代。家族の形も変化して、未来のお墓と暮らしはどのように変わっていくんだろうか。今回の旅で見てきたように、お墓の形や人々の暮らしは、時代により、また地域によって大きく変化してきたんだ。お葬式だって同じ。亡くなった人を送る方法には様々なやり方が考えられる。人生の最後をどのようにするかは、その人の置かれた状況やその人の考え方、それに残された家族の意向などを考えて決められていくんだろうね。その時のために、今回の旅のことが、わずかでも皆さんの心に残れば、うれしいな。





多摩ニュータウンの範囲

1. 多摩ニュータウンNo.5 遺跡 [稲城市長峰]
2. 多摩ニュータウンNo.457 遺跡 [多摩市落合]
3. 多摩ニュータウンNo.513 遺跡 [稲城市大丸]
4. 多摩ニュータウンNo.742 遺跡 [多摩市落合]
5. 多摩ニュータウンNo.192 遺跡 [町田市小ヶ丘]
6. 瀬戸岡古墳群 30 号墳 [あきる野市瀬戸岡]
7. 多摩ニュータウンNo.200 遺跡 [町田市小ヶ丘]
8. 多摩ニュータウンNo.72 遺跡 [八王子市堀之内]
9. 多摩ニュータウンNo.107 遺跡 [八王子市松木]

【参考文献】

- 東京都教育委員会 「多摩地方の古墳」『東京都文化財調査報告』第三集 1956
 平田篤胤著 子安宣邦校注 『仙境異聞、勝五郎再生記聞』 岩波文庫 2000
 日野市郷土資料館 『ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語』 2008
 東京都埋蔵文化財センター 『多摩ニュータウン遺跡 昭和 58 年度（第 6 分冊）』
 東京都埋蔵文化財センター調査報告第 5 集 1984
 同 『多摩ニュータウン遺跡 昭和 60 年度（第 2・4 分冊）』調査報告第 8 集 1987
 同 『多摩ニュータウン遺跡 -No. 457 遺跡-』調査報告第 35 集 1999
 同 『多摩ニュータウン遺跡 -No. 72・795・796 遺跡-(2)・(11)』調査報告第 50 集 1998・1999
 同 『多摩ニュータウン遺跡 -No. 107 遺跡- 旧石器・縄文時代編』調査報告第 64 集 1999
 同 『東京都あきる野市天神前遺跡 瀬戸岡古墳群 上賀多遺跡 新道通遺跡 南小宮遺跡』
 調査報告第 95 集 2001
 同 『多摩ニュータウン遺跡 -No. 200 遺跡（第 2・3 次調査）- II』調査報告第 108 集 2002
 同 『多摩ニュータウン遺跡 -No. 192 遺跡-』調査報告第 152 集 2004

【協力者・協力機関（敬称略）】

東京都教育委員会 東京都江戸東京博物館
 東京都江戸東京たても園 日野市郷土資料館
 北村澄江 清野利明 笹津備当 松井かおる



編集 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団
 東京都埋蔵文化財センター

発行 東京都立埋蔵文化財調査センター
 東京都多摩市落合 1-14-2
 TEL 042(373)5296

発行日 平成 27 年 10 月 31 日